

SDGs 市民社会ネットワーク

〒102-0072 東京都千代田区
飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 604
電話：03-5357-1773
FAX:03-5357-1774
e-mail:office@sdgs-japan.net



Japan Civil Society Network on SDGs (SDGs Japan)

#604 Sankyo Bldg, 1-7-10 Iidabashi,
Chuo-ku, Tokyo 102-0072 Japan
TEL:81-3-5357-1773
FAX:81-3-5357-1774
e-mail:office@sdgs-japan.net

SDGs 市民社会ネットワークから、皆様へパブリック・コメントのお願い 2030 年の日本と世界の未来を、持続可能にする「SDGs(持続可能な開発目標)」達成のため、 読まれる、取り上げてもらえるパブコメを書くためには？

「SDGs 実施指針」改定に向けたパブコメ・ガイド 2019 「内容編」 < 目次 >

- (p.01) 1. 基本の基本：パブコメには、「あなたの書きたいこと」を書いてよいのです
- (p.01) 2. テーマや論旨について「ヒント」が欲しい方へ
- (p.03) 3. 結局「あなたの意見」をしっかりとまとめることが大事
- (p.05) 【補足・再掲】パブリック・コメントの書き方 = どうやってまとめるか =
- (別添) 市民社会からの「SDGs 実施指針」改定への意見（案）

【日本政府 SDGs 実施指針(改定版)についての意見募集始まる！】

2019 年 11 月 11 日(月)から 25 日(月)までの 2 週間、「SDGs 実施指針(改定版)」に関するパブリック・コメントが募集されています。「SDGs 実施指針」は、日本の SDGs への取組に関する国家戦略文書であり、この「SDGs 実施指針」がどんなものになるかで、日本の SDGs 達成も左右されることになります。パブリック・コメント(以降、パブコメ)を書いて、私たちの意見を届け、政府の政策形成に参加・協力しましょう！

とはいっても、急に「パブコメ」を書こう、といっても、なかなか難しいかもしれません。どのように書いていけばよいのでしょうか？ちょっと解説してみました。

1. 基本の基本：パブコメには、「あなたの書きたいこと」を書いてよいのです

最も基本的で、最も大事なことですが、パブコメには、テーマに沿う形で、「あなたの書きたいこと」を書けばよいのです。今回の場合は、「SDGs 実施指針（改訂版）の骨子についての意見募集」のページに行き、そこで添付されている以下の文章をまず読んでみましょう。

(1) SDGs 実施指針（改訂版）の骨子についての意見募集

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000194293>

(2) SDGs 実施指針（改訂版）（骨子）

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000194294>

(1) は、今回の意見募集についての説明で、大事なものは (2) の方です。まず、こちらを一読してみましょう。そのうえで、「あなたの書きたいこと」について考え、いくつかアイデアを出して見て、一番文章にまとまりそうなものを選び、論旨を決めて、文章を書いてみましょう。文章がしっかり書けたら、もう一度見直して送ってみましょう。

2. テーマや論旨について「ヒント」が欲しい方へ

(1) あくまで、「自分の思ったこと、書きたいこと」を書こう

上に述べたように、パブコメには、テーマに即して、「あなたの書きたいこと」を書いてよいのです。そうはいっても、書きたいことはあっても、なかなか形にならない、というようなことはよくあると思います。そういった場合には、他の個人・団体が書いたパブコメを読んだり、論点を確認したりしてヒントを得る、ということは、パブコメを書くうえで大切なことだと思います。

この場合に、一つ留意する必要があるのは、特定の課題でも、世の中には千差万別の意見があり、あなたが読んだパブコメや論旨にとらわれる必要は全くない、ということです。例えば、読んだパブコメの論旨に賛同できなければ、どこが賛同できないか、また、どのような意見なら賛同できるのかを考えて、論旨を発展させる方法もあります。これから紹介するSDGs ジャパンの声明文の要旨についても、鵜呑みにすることなく、「疑う」という気持ちと、「自分の考えを組み立てることが大事」という気持ちでお読みいただき、「自分の言いたいこと、書きたいことを書く」ということで考えてみてください。

（２）SDGs ジャパンの意見書の論点

では、私たち「SDGs ジャパン」は、この「指針」に対して、どのような意見を表明しているのでしょうか。以下、簡潔にご紹介していきたいと思います。まずは、この「パブコメ・マニュアル」の別添 5 ページにある「『SDGs 実施指針』改定に関する意見」をお読みください。以下、論点を解説していきます。

論点 1：もっと「危機意識」を持とう

冒頭の論点は、SDGs 採択から 4 年、2030 年の達成期限まで 3 分の 1 の期間が経とうとしているところで、いまだに、貧困・格差の解消、持続可能な環境・経済・社会への変革のめどが見えてこないことについて、「**もっと危機意識を持とうよ**」ということです。改定「SDGs 実施指針」骨子案は、2016 年末に制定された「SDGs 実施指針」に比べれば、多少の危機意識は表れていますが、本年採択された SDGs サミットの「政治宣言」にあるような、**飢餓、貧困、格差の増大、気候変動の影響の拡大、生物多様性の喪失スピードの拡大**といった、まさに差し迫った持続可能性の危機に対する切迫感は十分ではないように思えます。**日本でも、私たちは実際、災害の危機、格差や貧困、ジェンダーや障害、性的指向や性自認（SOGIE）などにかかわる社会的・制度的な差別に直面しています。**こうしたリアリティを示し、「貧困のない、持続可能な社会」への歩みが遅れていることについての危機感をもっと持とうよ、という意見を書いてみる、というのは、説得力があるのではないのでしょうか。

もっと
「危機意識」
を持とう

論点 2：「貧困・格差」「ジェンダー平等」を優先課題に

次の論点は、日本の SDGs 達成に向けた最高レベルの国家戦略である「SDGs 実施指針」で、現在の 8 つの「優先課題」（3 ページ）に加えて、または、横断的な課題として、「**貧困・格差の是正」「ジェンダー平等**」を**しっかり書き込もうよ**、ということです。データを見れば、日本の SDGs 課題の中で、この二つの課題が他に比べて深刻であることは一目瞭然です。「指針」の中でも、例えば、2 ページにある「現状の評価」で、ベルテルスマン財団（ドイツ）の報告書を引用し、**日本は SDG5（ジェンダー）、SDG10（不平等）の取組に課題がある**と述べています。そうであれば、この二つの課題について、「優先課題」に追加するなり、他の優先課題とのかかわりで「横断的課題」として設定して、現状の不足点を分析し、現状の施策を見直したり、新たな施策を追加したりすることが必要だ、ということになると思います。そこで、「現実にはどのような問題が生じているか」について、**身の回りの事例などをとりあげるなどして示し、「どのような施策が必要か」**について、あなたの言葉で語る、ということは説得力を持つのではないのでしょうか。

「貧困・格差」
「ジェンダー平等」
を優先課題に

論点 3：「バックカスティング」で SDGs 達成を

次の論点は、SDGs の特徴ともいわれる「バックカスティング」の導入です。「2030 年にはどんな社会を望むか」という視点から、「SDGs が達成された 2030 年」という目標を立て、この「目標」と「現状」のギャップを把握し、目標が達成され

「バック
カスティング」
で SDGs 達成を

た状態から逆算するロードマップで、課題に取り組んでいくという、「バックカスティング」という考え方を、日本の「SDGs 実施指針」に導入しようよ、ということです。残念ながら、提案されている「指針骨子案」では、SDGs に関わる様々な重要課題について、SDGs のグローバル指標などを参考にしながら、日本としての「目標」をたて、現状のデータを分析し、ロードマップを作る、ということは全く書いていません。しかし、この「バックカスティング」は、すでに途上国を含む多くの国々で実施されており、日本は後れを取っていると言えます。SDGs の期限である 2030 年まで、あと 10 年しかありません。せめて、ジェンダーや貧困・格差是正、防災、地球温暖化防止、地域経済の活性化といった課題については、既存の政策を SDGs のグローバル指標との関係で見直し、参加型で 2030 年目標を作り、現在のデータを集めてギャップを分析し、道筋を作っていくということを、「今すぐに」始める必要があります。**あなたにとってリアリティのある課題に関して、「2030 年目標」を作ろう、というアイデアを出してみるのも、良いのではないのでしょうか。**

論点 4：透明性の高い「国家戦略」を

「SDGs 実施指針」は、日本の SDGs 達成に向けた「国家戦略」、いわば日本政府による SDGs の「トリセツ」（取扱説明書）であると言えます。つまり、**国民、市民、また日本が SDGs について何をやっているのか知りたい海外の方が、日本政府のどの省庁が、SDGs の達成に向けてどんな行動をしているのかを知りたいときに、「SDGs 実施指針」を読めばだいたいわかる、というものにしておく必要があります。**残念ながら、今の「SDGs 実施指針」は、SDGs に取り組む政府など各セクターの「枠組み」や「優先課題」については書いてあるものの、「SDGs 達成」に向けて政府のどの機関が、どの様な戦略に基づいて、どの様な計画の下に、何をやろうとしているのか、ということについてはほとんど触れられておらず、一読しても、政府が SDGs 達成に向けて何をやろうとしているのかが不透明になっています。

また、具体的な実施事項は、毎年定める「アクションプラン」に記載することになっていますが、4 年に一回改定する「指針」と、毎年改定する「アクションプラン」の関係についても適切に規定していません。世界の中の日本として、海外が「日本は SDGs について何をしているのか」を知りたいと思ったときに、この「指針」を読めばだいたいわかる、という程度の**透明性とアカウンタビリティを実現する必要がある**のではないのでしょうか。

**透明性
の高い
「国家戦略」を**

論点 5：みんなの声を集めて政策立案・実施・評価をするシステムを

政府の「SDGs 推進本部」は、2016 年に最初の「SDGs 実施指針」を策定するにあたって、市民社会、民間企業、国連機関、大学・研究機関などで SDGs に取り組んでいた主要な関係者 14 名を選んで「SDGs 推進円卓会議」を作りました。この「円卓会議」は、国連の「持続可能な開発」プロセスで各種の非国家主体を代表する「国連メジャーグループ」などとは性格が異なるものの、今回の指針策定など、**機会あるごとに、各セクターの意見を集め、SDGs 達成に向けて様々な意見を集約し、政府に届け、政策に意味のある貢献をする重要な役割を負っています。**この「円卓会議」に分科会を設けるなどして、仕組みをもっと充実させ、より多様な立場の人々の意見を政府に届け、**SDGs 達成に向けて、市民の声がもっと反映するようにすることが必要**です。皆さんの住む地域や世代、性別、コミュニティなどの意見を SDGs 政策に反映するには、こういう仕組みがあった方が良く、といった提案をしてみるのも、有効だと思います。

**みんなの声を集めて
政策立案・実施・
評価をするシステムを**

3. 結局「あなたの意見」をしっかりとめることが大事

いま、「SDGs ジャパン」が出した意見書の内容について、解説してきました。あなたにとって、「ピンとくる」内容はありましたでしょうか。または、「この意見には同意できない、自分の意見の方が正しい」と思えるような意見はありましたでしょうか。

いずれにせよ、パブリック・コメントには、「**あなた自身の意見**」を**しっかり具体化して書くことが大事です**。また、ほかの人の意見などについては、自分として腑に落ち、納得したことを書く、ということが大事だと思います。「**これかな**」と思った**論点について、ぜひ、自分なりに突き詰めて、意見としてまとめ**、書いたうえで、一度しっかり見直して、提出してみるのが良いかと思います。ぜひ、がんばってみてください。

【補足・再掲】パブリック・コメントの書き方 = どうやってまとめるか =

本章の最初に書いたように、パブリック・コメントには、「SDGs 実施指針改定案」、「実施指針改定案 付表（具体的施策）」について、あなたの意見をそのまま書けばよいのです。しかし、そうは言っても、頭から書くのはなかなか難しいかもしれません。迷った場合は、以下を参考にしてみてください。

（１）下書きを書いてみよう！

- ① まずは下書きを書こう：いきなり「E-gov」ウェブサイトの「意見提出フォーム」やファックス・郵送用書式に書き込むよりは、まずは下書きをしてみましょう。
- ② 時候の挨拶を書こう：「パブリック・コメント」はあなたから政府への手紙です。いきなりストレートに課題に入るよりは、短く時候の挨拶を書いてみると、書き出しの苦労が少しは緩和されるのではないのでしょうか。
- ③ テーマを選ぼう：書くべきテーマがあらかじめ決まっている方は良いかと思いますが、迷っている方は、例えば、このペーパーの別添資料である市民社会からの「SDGs 実施指針」改定への意見（案）」を見ていただき、「全体課題」、または、今後更新される「個別課題」から一つを選んで、書いてみるとよいと思います。それ以外の実施指針内のテーマについては、④以降をしっかりやって書いてみてください。
- ④ 「骨子」「付表骨子」をしっかり読もう：テーマを選んだら、そのテーマに関する「骨子」および「付表骨子」の記述をしっかり読み、どう感じたかをメモしてみましょう。
首相官邸「SDGs 推進本部」 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/>
- ⑤ 自分の感じ方と、このペーパーで示されている考えを比べよう：メモしたあなたの感じ方と、このペーパーでの分析や提案などを見比べてみましょう。それでしっくりきたら、このペーパーで提示されている考え方を踏まえて、あなたの言葉で表現してもらえるとよいかと思います。逆に、このペーパーの分析や提案と意見が違ったら、あなたの意見の方を採用し、考え方を整理して、文章にしてみましょう。

＊ あなたの意見を、4 要素に整理して文章化するための、一つの方法をご紹介します。

（協力：コミュニケーショントレーニングネットワーク®）

1. あなた自身の生活・活動を「背景」として簡潔に表現し、どんな「目的・意図」でパブリック・コメントを送るのか、そして、このパブリック・コメントが「SDGs が達成された持続可能な世界」という「ビジョン」の実現につながる、と明記しましょう。
2. 「何ページの「○○○」という項目は、こうした方がよいのではないか。」「私は『反対』である（もしくは『賛成』である、理由は『×××』である。）」と「具体的な事実」や理由に基づき、「具体的な行動」案を書きましょう。
3. 2 の事実や行動によって、日本と世界に及ぼされる、「具体的な影響」を SDGs の観点で表現しましょう。
4. あなた自身がこのパブリック・コメントを書いたことで感じたこと、正直な気持ちを最後に書いて、あなたの言葉

を政府に届けましょう。

(2) 送る前に見直しをしよう！出来れば誰かに読んでもらおう！

文章が書けると、ああ書けた、さあ送ってすっきり終わりにしよう、と思うものですが、送る前に必ず見直しをして、他人が読んで誤解なく通用するわかりやすい表現になっているか確認しましょう。できれば、他の人に読んでもらい、文意が誤解なく伝わるかどうか、わかりやすいかどうかを確認した方が良いと思います。

(3) 送る前に保存をして、後からでも読み返せるようにしよう！

パブリック・コメントは、政府 e-gov ウェブ、メール、また、ファクスや郵送でも送れます。しかし、原本を郵送してしまうと、自分が何を書いたのか後で読み返せなくなります。文書データは保存をし、郵送の場合はコピーを取るなどして、自分が何を書いたか、後で読み返せるようにしてから送信・郵送などをするようにしましょう。

SDGs 市民社会ネットワーク「SDGs 実施指針改定に向けたパブリック・コメントのお願い」

◎編集：SDGs 市民社会ネットワーク (<https://www.sdgs-japan.net/>)

◎連絡先：〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 604

電話：03-5357-1773 FAX:03-5357-1774 e-mail:office@sdgs-japan.net

※本ペーパー作成にあたり、多くの NGO/NPO 関係者の協力を頂きました。ここに心から感謝申し上げます

We are transforming our world!

【別添】必要に応じて、パブコメ作成のヒントにご活用ください。

2019 年 11 月 15 日

SDGs 推進本部 本部長
内閣総理大臣 安倍 晋三 様

(一社) SDGs 市民社会ネットワーク
共同代表理事 大橋正明
共同代表理事 三輪敦子

「SDGs 実施指針」改定への意見

2016 年 12 月に現在の「SDGs 実施指針」が策定されてからほぼ 3 年が経過し、指針改定の時期が到来しました。過去 3 年間で SDGs の認知度は大きく拡大し、また「地方創生」などの課題を中心に、政府、民間セクター、アカデミア等における SDGs への取り組みも拡大しました。一方で、だれ一人取り残すことなく貧困をなくし、持続可能な社会・経済・環境の実現を目指すという SDGs の本質的な価値は必ずしも浸透したとは言えません。日本では、2018 年の西日本を中心とする一連の大水害、2019 年の台風 15 号や 19 号などによる東日本大水害をはじめ、災害の激甚化が進行し、地球温暖化と連動して「日本の持続可能性」が危機にさらされています。ジェンダー平等への歩みは遅く、貧困・格差も深刻な状況で、各地域の経済社会も疲弊が甚だしくなっています。世界的にも、本年の SDG サミットで採択された政治宣言は、貧困解消やジェンダー平等の目標の実現が危機にさらされていることや、飢餓や国内外の格差の拡大、生物多様性の喪失や災害リスクの増大など、2030 年までの SDGs の達成がおぼつかない状況にあることに警鐘を鳴らしています。「SDGs 実現を本気で目指すのか、それとも形だけに終わらせるのか」…問われているのは、このことです。指針改定にあたっては、何よりも、世界の現実を前にした危機意識と、その危機を克服し、SDGs 達成を是が非でも実現するという政治的意思、および「誰一人取り残さない」という SDGs の根幹にもとづく政策こそが明記されなければなりません。

上記認識から、私たちは、改定「SDGs 実施指針」に以下の事項を盛り込むことを、強く要望します。

1. 貧困・格差およびジェンダー平等を優先課題に

SDGs 達成にかかる日本の危機を踏まえ、以下の課題について、高いレベルで優先課題として明記してください。

- (1) 貧困・格差の是正
- (2) ジェンダー平等、およびジェンダーに基づく差別の解消

SDGs は、「貧困をなくす」ことに最大の優先順位を置いています。11 月 11 日に政府「SDGs 推進本部」が示した実施指針骨子案には「貧困の解消」「貧困・格差の是正」は全く示されていません。同骨子案の「現状の評価」では、ドイツのベルテルスマン財団等の報告書を引用する形で、日本の SDGs の取組のうち、SDG1（貧困）や SDG10（不平等）には課題があるとの指摘がなされています。そうであれば、「貧困・格差の是正」への取組に相対的に大きな優先順位が与えられるのが当然です。「ジェンダー平等」についても同様の指摘がある以上、これにも高い優先順位を設定すべきです。また、これに加え、日本の持続可能性の危機を象徴する課題である「防災・減災」および「地域経済・社会の活性化と環境の持続可能性の確保」にも高い順位が与えられるべきです。

2. 優先課題での SDGs 達成に向けて、高い「2030 年目標」の設定とギャップ分析に基づくロードマップの策定を軸とする「バックカスティング」の手法の導入を

優先課題への取り組みを加速し、2030 年に国内外、特に日本国内で誰も取り残さない SDGs を達成でき

るよう、高い目標設定と細分化されたデータに基づく現状のベースライン評価、ギャップ分析に基づいたロードマップの策定、エビデンスベースの指標に基づく評価を軸とする「バックキャスティング」の方法を採用することを明記してください。そのために、以下の事項を明記してください。

- (1) 優先課題に関して、日本政府の貧困の定義をまず確認したうえで、貧困・格差是正やジェンダー平等などを含む主要課題を設定し、SDGs のグローバル・ターゲット及び指標に従って、日本における 2030 年目標を設定する。
- (2) 上記目標に関して、細分化されたデータに基づき現状のベースラインを把握し、ギャップ分析を行って、これに基づくロードマップを策定する。そのためにも、グローバル指標に対応し、特に取り残されがちな対象（こども、障害者、高齢者、外国籍、LGBT など）別に細分化した統計の集計、整備、公表が出来る体制を早急に整える方針を形成する。
- (3) SDGs17 目標に関わる政府の政策策定においては、SDGs の考え方に基づき、できる限り、「バックキャスティング」の方法を組み入れる。

3. SDGs 達成に向けた日本の取組がわかる透明性の高い指針を

政府は 2018 年以降「SDGs アクションプラン」を策定し、「ソサエティ 5.0」「地方創生」「女性・次世代のエンパワーメント」の三本柱を軸に取り組みを拡大してきました。しかし、11 日に発表された SDGs 実施指針骨子案では、三本柱に沿ってどのように政府の取り組みや他セクターとの協働を進め、政策の立案・実施・評価の枠組みを作ってきたのかが明確になっていません。日本の SDGs への取り組みを理解しようと指針を手取る国民・市民や海外の関係者にとって、本指針が日本の SDGs に関する「国家戦略」たるにふさわしい、首尾一貫した、高い透明性と説明責任が保証された文書であることは、きわめて重要です。このことを保証するために、以下の事項を明記してください。

- (1) 「SDGs アクションプラン」の位置づけと「指針」との関係について、上位の文書である「指針」の中で明示してください。
- (2) 今次の指針改定で、旧来の優先課題と紐づけられた、数値目標や重要達成度指標（KPI）を含む日本の各種政策をまとめた「付表」がなくなり、「アクションプラン」に置き換えられることに鑑み、「アクションプラン」のまとめ方を変え、各種政策における数値目標や KPI を含めて明示するようにしてください。
- (3) 過去 3 年間で発展した日本の SDGs に関する取り組みによって新たに設置された枠組み、会議体、組織・機構について、「付表」の形で取り纏めることにより、政策の一貫性を明示し、説明責任を明確にしてください。

4. マルチステークホルダープロセスによる立案・決定・実施・評価の実現を

政府は「参画型」を SDGs の「実施原則」の一つとして重視しています。これを踏まえ、マルチステークホルダーの公的枠組みとして機能している「SDGs 推進円卓会議」の機能の拡大や代表性の強化を、より積極的に位置づける必要があります。これを実現するために、以下、明記をお願いします。

- (1) SDGs に関わる政府の主要な意思決定は、必ず SDGs 推進円卓会議での審議を経て行うようにしてください。
- (2) アクションプラン等、SDGs に関わる政府の戦略文書等を策定する場合は、事前に、SDGs 円卓会議に対して、守秘義務に配慮しつつ、検討に十分な情報を提供することを明記して下さい。
- (3) 国連の持続可能な開発プロセスが採用している「メジャーグループ」制度をヒントに、「誰一人取り残さない」マルチステークホルダー枠組みの拡大をお願いいたします。

以 上